OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ラルテー語における動詞語幹の交替
Author(s)	大塚, 行誠
Citation	言語文化研究. 2019, 45, p. 161-178
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71637
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ラルテー語における動詞語幹の交替

大 塚 行 誠

Verb stem alternation in Ralte

OTSUKA Kosei

This paper presents verb stem alternation in Ralte, a northern Kuki-Chin language of the Tibeto-Burman family. Most Ralte verbs have two phonologically distinct forms occurring in different types of clauses, which is a distinguishing grammatical feature of Kuki-Chin languages. In the first part of this paper, the author briefly describes some morphosyntactic features related to the verb stem alternation in Ralte, and in the latter half, he provides a list of Ralte's basic verbs with pairs of alternate verb stems, namely, "Form I" and "Form II". Since little has been reported or surveyed on this endangered language, this research is expected to directly contribute to the study of the Ralte language and its speakers.

キーワード：記述言語学，チベット・ビルマ語派，チン語支，危機言語，ミゾラム

1．言語の概要

ラルテー（Ralte）語はチベット・ビルマ語派のチン語支に属する。

ラルテー語話者のコミュニティは，インド共和国北東部のミゾラム州アイゾール（Aizawl）一帯に点在している（図 1 参照）。

ミゾラム州において「ラルテー」は氏族名の一つとして広く知られている。「ラルテー」という氏族名を持つ者は 3 万人近くいるが，その大半がミゾラム州における公用語の一つ，ミゾ（Mizo）語[1)]を母語としている。Simons and Fennig eds.

図 1　ミゾラム州および州都アイゾールの位置

1）ミゾ語はチン語支に属する言語であり，ルシャイ（Lushai）語またはドゥッリアン（Duhlian/Dulien）方言とも呼ばれる。「ミゾ」という民族名は，ミゾラム州原住民の総称として使われることが多い。

（2017）によれば，2007年の時点におけるラルテー語の話者数は僅か900人程度にすぎない。

ミゾラム州に住むラルテー語話者の多くはラルテー語のほかにも，ミゾ語を流暢に話すことができる。ラルテー語を不自由なく話すことのできる者は60代以上の高齢者に限られる（Chhangte 2011）。その為，昨今，ミゾラム州内においてラルテー語は「消滅の危機に瀕した言語」の一つとして認識されつつある（ミゾラム大学R.L. Thanmawia教授私信）。

本稿では，ラルテー語の動詞語幹に2つの形式が存在することを指摘した上で，その形態・統語的な特徴を明らかにする。

2．調査の概要

2.1　先行研究

ラルテー語の音韻と文法について記述言語学的な観点から記述した文献資料には，管見の限り，Grierson（1904），大塚（2015），大塚（2016a, 2016b）がある。

2.2　調査地点と調査日時

筆者は2017年2月27日から3月10日までの12日間と2018年2月13日から18日までの6日間，アイゾール市ボンコーン（Bawngkawn）地区でラルテー語の動詞に関する調査を行った。

2.3　調査協力者

メイン・インフォーマントは1946年7月生まれの男性，ラルラムザウヴァ・ラルテー（Lalramzauva Ralte）氏である。氏はラルテー語の高い運用能力だけでなく，ラルテー語話者の文化や社会に関する豊富な知識も持つことから，言語学や人類学を専門とする現地研究者から厚い信頼を集めている。さらに，自らもラルテー語の記録と保存に貢献する為，Ralte Study Forum ed.（2012）やRalte（2017）の出版等，意欲的に執筆活動を進めている。

2.4　調査方法

はじめに，服部（編）（1957）と藪（1982）の基礎語彙調査票をもとに基本動詞のリストを作成し，各動詞語幹における2つの形式を抽出した。次に，Chhangte（1986），Chhangte（1993），L.V. Zahnuna（2013）に記載のあるミゾ語をラルテー語に翻訳した上で，どのようなタイプの節において動詞語幹の交替が見られるのか考察した。

2.5　表記

ラルテー語にはミゾ語の正書法とよく似たラテン文字による表記法があり，ラルテー語とミゾ語の対訳例文集（Ralte 2005, Ralte 2017）やラルテー語による新約聖書（Ralte Study Forum ed.

2012）等，様々な書籍で用いられている。しかし，この表記法には声調を示す記号が無い。本稿では，ラルテー語の発音をなるべく正確に表す必要がある為，筆者が独自に考案した音素表記（§ 2.6）を用いる。

2.6 音韻

2.6.1 音節構造

ラルテー語の音節構造は（C1）V（C2）（C3）/Tと表すことができる。C は子音，V は母音，/T は音節全体にかぶさる声調である。

2.6.2 子音

頭子音 C1を表 2−1 に示す。但し，そり舌音の ʈ と ʈʰ の出現頻度は低い。

表 2−1 頭子音音素

p pʰ b		t tʰ d	(ʈ[ʈ]) (ʈʰ[ʈʰ])	k kʰ	
m		n		ŋ	
		r			
	f v	s z			h
			tɕ		
		l			

C2のスロットには p, t, k, m, n, ŋ, r, l, y[j] , w のいずれかが入り，C3のスロットには声門閉鎖音 ʔ のみが入る。但し，C2と C3が共起する場合，その組み合わせは rʔ, lʔ, yʔ, wʔ に限られる。

2.6.3 母音

単母音には i, i:, e[ɛ] , e:[ɛ:] , a, a:, o[ɔ] , o:[ɔ:] , u, u: があり，二重母音には ia, ua がある。

2.6.4 声調

声調素には上昇調（˥˧），低平調（˧），下降調（˧˥）の 3 つがある（例（1）a.-c. 参照）。但し，短母音で終わる開音節はどれも低平調で現れるようである（例：sa˧korˌ「馬」）。

（1）a. sa:˥˧ b. sa:˧ c. sa:˧˥ d. saʔ_ e. tap_sak_

[sa:˥˧] [sa:˧] [sa:˧˥] [saʔ˧] [tap̄˧sak̄˧]

‘歌う’ ‘肉’ ‘熱い’ ‘厚い’ ‘囲炉裏’

末子音 -ʔ の閉音節（例（1）d. 参照）および韻母が短母音と末子音 -p,-t,-k から成る閉音節（例（1）e. 参照）は原則として低いピッチ［˧］で現れるが，低平調の後に続く場合は高いピッチ［˥］

になる点で注意が必要である（例（2)b. 参照)。このような音節に現れる調値をまとめて「_」と表すが，これを声調素と見なすか否かについてはまだ結論を得ていない。

(2) a. ŋo:yᐟ =oʔ_
［ŋɔ:jᐟ ɔʔᐞ］
silentᴵ =IMP
‘黙れ。’

b. soyᐞ =oʔ_
［sɔjᐞ ɔʔᐟ］
sayᴵ =IMP
‘言え。’

c. kelᐯ =oʔ_
［kelᐯ ɔʔᐞ］
goᴵ =IMP
‘行け。’

上昇調の後に下降調が続くと，先行の上昇調は低平調に交替する点にも注意が必要である（例(3) 参照)。

(3) tʰeyᐟ + =owᐯ → tʰeyᐞ =owᐯ
knowᴵ =NEG knowᴵ =NEG
‘知る’ ‘～しない’ ‘知らない’

2.7 文法

文末に述語が来るという制約が強い。自動詞文の基本語順はSV(例（4) 参照)，他動詞文の基本語順はAPV（例（5) 参照）と表すことができる。

格標示は能格型標示をとる。A相当の名詞句には能格助詞 =inᐟ(例（5) 参照）を付加するが，S相当またはP相当の名詞句には格助詞を付加しない（例（4) , (5) 参照)。

(4) doᐯvaᐞ =keːᐞ aᐞ= kap_ =uʔ_
PR =PL 3= cryᴵ =PL
‘ドヴァたちは泣いた。’

(5) tʰaŋᐯaᐞ =inᐟ teoːᐞ aᐞ= suːmᐟ
PR =ERG meal 3= cookᴵ
‘タンガがご飯を作った。’

人称標示には自立語の人称代名詞と人称接語がある（大塚 2016b)。人称接語は名詞の前に付加して所有者の人称を表すほか，述語動詞の前後に付加して主語あるいは目的語の人称との一致を示すこともある（例（6) , (7) 参照)。但し，複数を表示するには，人称接語に加え，複数を示す助詞 =uʔ_ を付加しなければならない（例（4) 参照)。

（6）kaɬ= uiɬ
1= dog
‘私の犬’

（7）tɕo:ɬ kaɬ= sup_-sak_ =aŋɬ =tɕiʔ_
meal 1= cookII-BEN =FUT =2.OBJ
‘私は君の為にご飯を作ってあげるよ。’

3．動詞語幹の概要

チン語支に属する多くの言語において，動詞語幹は2つの形式を持つ（Hillard 1974, 西田 1989, Matisoff 2003, VanBik 2009）。本稿では，ラルテー語と系統関係の近いティディム・チン語の文法記述（Henderson 1965）にならい，これら2つの語幹形式をそれぞれ「形式Ⅰ（Form I）」，「形式Ⅱ（Form II）」と呼ぶことにする。

形式Ⅰと形式Ⅱの使い分けには形態・統語的な条件が関与する。形式Ⅰは無標の形式であり，主節の述語動詞は通常形式Ⅰで現れる。一方，形式Ⅱのほうはいわば有標の形式であり，従属節中に現れることが多いほか，名詞化や結合価増加等の派生機能も持っている。以下，有標の形式Ⅱの動詞がどのような節で出現するのかについて簡潔に記述する。

3.1 統語的特徴

3.1.1 名詞化

形式Ⅱは名詞化のプロセスに関与すると考えられる（例（8）参照）。

（8）a. tɕa:ɬ
eatI
‘食べる’

b. tɕa:kɬ =a:ŋɬ
eatII =PURP
‘食べるためのもの（意訳：食べもの）’

引用節を除いた補文節，すなわち名詞化節中の述語動詞は基本的に形式Ⅱで現れる。例（9）では名詞化節の部分を｛ ｝で囲んで示す。ラルテー語には名詞化節の後にsuŋ「中」等の名詞（例（10）参照）や=poʔ_「～も」等の助詞（例（11）参照）を付加した形の副詞節が少なからずあり，そのような副詞節における述語動詞も形式Ⅱで現れる。

(9) {ka˩= vok_ tɕo˩ piak˩} a˩= ku:l˦
1= pig food give^{II} 3= necessary^{I}
'私の豚に餌をやることを必要とする。(意訳：私の豚に餌をやる必要がある。)'

(10) ka˩= zin˩ suŋ˥ =un˥ hua?_ a˩= zu:˧
1= travel^{II} middle =PL.CONJN rain 3= rain^{I}
'我々が旅をしている最中に雨が降った。'

(11) koŋ˥ a˩= siat˩ =po?_ =in˥ ka˩= kel˥ =th^{h}ow˩ =viŋ˩ =u?_
road 3= bad^{II} =even.if =CONJN 3= go^{I} =still =FUT =PL
'道が悪くても，我々は行く。'

一部の名詞は動詞と同様の特徴を持つ。例えば，以下の (12)a. の mi˩hiŋ˥「人間」と (13)a. の pa˩li:˥「四」は通常どちらも名詞として用いられるが，名詞化助詞 =na:˥ を付加することができ，語幹が交替するという動詞的な特徴を見せることもある (例 (12)b., (13)b. 参照)。こうした現象はミゾ語にも見られる (Chhangte 1993: 75, 82)。

(12) a. mi˩hiŋ˥ a˩= hi:˧
human 3= COP^{I}
'人間である。'

(12) b. mi˩hin˩ =na:˥
human^{II} =NMLZ
'人間らしさ'

(13) a. a:k˥ pa˩li:˥ ka˩= dey?_
hen four 1= want^{I}
'私は，鶏が四羽欲しい。'

(13) b. a:k˥ pa˩li:˩ =na:˥ ka˩= dey?_
hen four^{II} =NMLZ 1= want^{I}
'私は，四番目の鶏が欲しい。'

3.1.2 名詞修飾表現

ある動詞が名詞を修飾する際，形式Ⅰの動詞を用いると被修飾名詞が動詞の主語にあたることを示し，形式Ⅱの動詞を用いると被修飾名詞が動詞の主語ではないことを示す。

(14) から (16) の文は，Chhangte (1986: 225–227) にあるミゾ語の文をラルテー語に翻訳したものであり，各文には修飾部の動詞と主要部の被修飾名詞が含まれる。修飾部には名詞修飾を示す特別な標識は現れない。以下の例文では，主要部を**太字**で示し，修飾部と主要部から成る部分を { } で囲んで示す。

主要部は修飾部の前後どちらにも現れうるほか，主要部が修飾部に内在する形で現れる場合もある (例 (14), (15) 参照)。但し，道具や場所を表す名詞が主要部となる場合，主要部は修

飾部の後に現れ，修飾部には名詞化助詞 =na:˥ を付加する（例（16）参照）。

修飾部の動詞が形式Ⅰである場合，その動詞の主語にあたる「少女」が主要部になる（例（14）参照）。修飾部の動詞が形式Ⅱである場合は，非主語名詞が主要部になる（例（15），(16) 参照）。例（15）は被動作者の tʰiŋ˩「木」，例（16）は道具の se:ŋ˩「かご」が主要部にあたる。

（14）{**nu˩ŋa:k˩**　se:ŋ˩　=a:˥　tʰiŋ˩　pua˩}　=hi˩za:˥　ka˩=　mu:˦˥
maiden　basket　=INS　wood　carryᴵ　=DET　1=　seeᴵ
‘かごで木を運んでいる少女を私は見た。’

（15）{nu˩ŋa:k˩　se:ŋ˩　=a:˥　**tʰiŋ˩**　puak˩}　=hi˩za:˥　ka˩=　mu:˦˥
maiden　basket　=INS　wood　carryᴵᴵ　=DET　1=　seeᴵ
‘少女がかごで運んでいる木を私は見た。’

（16）{nu˩ŋa:k˩　tʰiŋ˩　puak˩　=na:˥　**se:ŋ˩**}　=hi˩za:˥　ka˩=　mu:˦˥
maiden　wood　carryᴵᴵ　=NMLZ　basket　=DET　1=　seeᴵ
‘私は少女が木を運んでいるかごを見た。’

3.1.3　疑問語疑問文

疑問語が文中の主語にあたる場合，形式Ⅰの動詞を用いる（例（17），(18) 参照）。

（17）i:˦˥　=ha:˦˥　hi˩　=ka?_
what　=Q　becomeᴵ　=PRF
‘何が起こったの？（どうしたの？）’

（18）ku:˦˥　=in˦˥　=ha:˦˥　a:y˦˥=　sam˩
who　=ERG　=Q　3＞1=　callᴵ
‘誰が私を呼んだの？’

疑問語が文中の主語にあたらない場合は形式Ⅱの動詞を用いる。以下の (19) から (21) にその具体例を示す。例（19）と (20) では被動作者を表す非主語名詞が疑問語になっており，例（21）では場所を表す非主語名詞が疑問語になっている。このように，疑問語が主語以外の名詞である場合には，述語動詞は形式Ⅱで現れる。

(19) i:˧ =ha:˧ na˩= ne:k˩ =a:ŋ˩
what =Q 2= drink^{II} =PURP
'君は何を飲む？'

(20) ku:˧ =ha:˧ na˩= tʰaʔ_
who =Q 2= kill^{II}
'君は誰を殺したの？'

(21) kʰoy˥ =aʔ_ =ha:˧ a˩= tɕe:n˧
where =LOC =Q 3= live^{II}
'彼はどこに住んでいるの？'

3.1.4 結合価増加との関連性

形式Ⅱは結合価増加にも関与すると考えられる。結合価増加接辞を付加した動詞は必ず形式Ⅱで現れる。代表的な結合価増加接辞のうち，裨益接辞 -sak_（例（22)b. 参照），随伴接辞 -puyʔ_（例（23)b. 参照），「～を後にして～する」という意味で放置を示す接辞 -san˧（例（24)b. 参照），使役接辞 -ti:k˥（例（25)b. 参照）を用いた例を以下に示す。

(22) a. kor˩ a˩= ley˩
dress 3= buy^{I}
'彼は服を買った。'

b. kor˩ a:y˧= ley˧-sak_
dress 3＞1= buy^{II}-BEN
'彼は私に服を買ってくれた。'

(23) a. kor˩ a˩= ley˩
dress 3= buy^{I}
'彼は服を買った。'

b. kor˩ a:y˧= ley˧-puyʔ_
dress 3＞1= buy^{II}-COM
'彼は私と共に服を買った。'

(24) a. ka˩= kel˥
1= go^{I}
'私は行った。'

b. in˩ ka˩= kel˧-san˧
house 1= go^{II}-RELINQ
'私は家を残して行った。'

(25) a. ka˩= kel˥
1= go^{I}
'私は行った。'

b. a:y˧= kel˩-ti:k˥
3＞1= go^{II}-CAUS
'彼は私に行かせた。'

3.2 形態的特徴

形式Ⅰと形式Ⅱの間には以下のような声調，末子音，母音の交替が見られる。

3.2.1 2つの形式間で声調のみが異なる場合

形式Ⅰは下降調または低平調で現れ，形式Ⅱは上昇調で現れる（例（26)–(42) 参照)。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(26)	ni:˩	ni:˧	「笑う」
(27)	tɕi:p˩	tɕi:p˧	「固い」
(28)	ho:t˩	ho:t˧	「挽く」
(29)	pu:k˩	pu:k˧	「貸す」
(30)	va:k˩	va:k˧	「白い」
(31)	sual˩	sual˧	「悪い」
(32)	kel˩	kel˧	「行く」
(33)	om˩	om˧	「ある」
(34)	hiam˩	hiam˧	「鋭い」
(35)	so:n˩	so:n˧	「押す」
(36)	min˩	min˧	「熟した」
(37)	tɕe:r˩	tɕe:r˧	「痩せた」
(38)	tʰar˩	tʰar˧	「新しい」
(39)	sa:w˩	sa:w˧	「長い」
(40)	tʰa:w˩	tʰa:w˧	「太った」
(41)	ta:y˩	ta:y˧	「晩い」
(42)	luy˩	luy˧	「古い」

3.2.2 2つの形式の間で韻母（rhyme）が異なる場合

現調査段階では，データが不足している為に声調との相関性まで明らかにすることはできなかった。しかし，なるべく大まかな声調のパターンも見られるように例を提示する。

[1] 形式Ⅰが末子音を持たない場合

形式Ⅱは末子音 -t,-k,-ʔ を持つ形で現れる（例（43)–(52) 参照)。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(43)	sia˩	siat˧	「吐き出す」
(44)	hua˩	huat˩	「嫌う」
(45)	bo:l˩pʰa:˧	bo:l˧pʰat_	「直す」
(46)	na:˩	nat_	「痛い」
(47)	ha:˩	ha:k˧	「着る」
(48)	tɕa:˩	tɕa:k˩	「食べる」
(49)	ta:˧	ta:k˩	「落ちる」
(50)	sa:˧	sak_	「建てる」
(51)	mu:˧	muʔ_	「出会う」
(52)	tʰi:˩	tʰiʔ_	「死ぬ」

［2］ 形式Ⅰが末子音を持つ場合

形式Ⅰと形式Ⅱの間で見られる末子音の交替を以下の表3-1にまとめた。それぞれの具体例を(53)から(80)に示す。末子音-ŋを持つ形式Ⅱの動詞は見つかっていない。

表3-1 末子音交替のパターン

形式Ⅰ 末子音	形式Ⅱ 末子音	参照例
-ŋ	-n	(53), (54)
-ŋ	-t	(55), (56)
-m	-p	(57), (58), (59)
-n	-t	(60), (61), (62)
-l	-lʔ	(63), (64)
-r	-rʔ	(65)
-y	-yʔ	(66), (67), (68)
-w	-wʔ	(69), (70)
-w	-ʔ	(71), (72)
-p	-ʔ	(73), (74)
-t	-ʔ	(75), (76)
-k	-ʔ	(77), (78), (79), (80)

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(53)	za:ŋ˩	za:n˧	「軽い」
(54)	kʰuŋ˥	kʰun˧	「座る」
(55)	ka:ŋ˧	kat_	「燃える」
(56)	maŋ˥	mat_	「使う」
(57)	ha:m˧	hap_	「欠伸をする」
(58)	sam˩	sap_	「呼ぶ」
(59)	ol˥sam˥	ol˧sap_	「簡単だ」
(60)	pan˧	pat_	「始める」
(61)	don˩	dot_	「答える」
(62)	man˥	mat_	「掴む」
(63)	kʰe:l˧du:n˧	kʰelʔ_dut_	「遊ぶ」
(64)	tɕo:l˩	tɕolʔ_	「休む」
(65)	tɕa:r˧	tɕarʔ_	「付ける」
(66)	la:y˧	layʔ_	「掘る」
(67)	na:y˩	nayʔ_	「近い」
(68)	ŋa:y˥dam˥	ŋayʔ_dam˧	「許す」
(69)	la:w˩	lawʔ_	「怖がる」
(70)	za:w˥	zawʔ_	「広い」
(71)	zow˧	zoʔ_	「終わる」
(72)	tʰow˩	tʰoʔ_	「起きる」
(73)	ka:p˩	kaʔ_	「撃つ」

(74)	kap_	kaʔ_	「泣く」
(75)	zo:tˬ	zoʔ_	「訊ねる」
(76)	tʰat_	tʰaʔ_	「殺す」
(77)	tɕuakˬ	tɕuaʔ_	「跳ねる」
(78)	ziakˬ	ziaʔ_	「書く」
(79)	hamˬ suakˬ	hamˬ suaʔ_	「猟に行く」
(80)	zak_	zaʔ_	「恥ずかしい」

[3] 母音の交替

[1]と[2]で述べた交替と連動する形で母音の交替も見られる。形式Ⅰの長母音は形式Ⅱにおいて短母音で現れる傾向にある（例（81)–(83) 参照)。さらに,「形式Ⅰの母音：形式Ⅱの母音」と表すとすれば，ua:o（例（84) 参照）と ia:e（例（85) 参照）という母音交替が見られる。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(81)	na:ˬ	nat_	「痛い」
(82)	sa:ˬ	sak_	「建てる」
(83)	tʰi:ˬ	tʰiʔ_	「死ぬ」
(84)	pʰuanˬ	pʰot_	「泡立つ」
(85)	lianˬ	let_	「大きい」

3.2.3 2つの形式が同形である場合

動詞のうち，末子音 -ʔ で終わるものは形式Ⅰと形式Ⅱが同形である（例（86)，(87)，(88) 参照)。また，韻母が短母音と末子音 -p,-t,-k から成るものの一部も形式Ⅰと形式Ⅱが同形である（例（89)，(90)，(91) 参照)。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(86)	kʰuʔ_	kʰuʔ_	「咳をする」
(87)	hilʔ_	hilʔ_	「教える」
(88)	herʔ_	herʔ_	「締めつける」
(89)	tʰap_	tʰap_	「ざらざらした」
(90)	hit_	hit_ (hiʔ)	「重い」
(91)	tʰak_	tʰak_	「痒い」

4. 2つの動詞語幹のデータ例

今回の調査で用いた基本動詞リストは合計344語の動詞から成る。しかし，紙面の都合上，本稿で全部を掲載することはできない。そこで，服部（編）(1957）の最重要項目に挙がっている語の中からラルテー語に翻訳可能であり，かつ動詞に分類できるものを例として示す。

「番号」の欄には服部（編）(1957）にある整理番号を記し,「見出し語」の欄には日本語のほ

か，現地調査で媒介言語として使用した英語とミゾ語の訳を記す。

以下のリストの中には名詞と動詞から成る慣用句も含まれる。その場合は，名詞と動詞の間にスペースを置き，後続する語のほうが動詞であることを明示する。

表 4-1　ラルテー語の基本動詞に見られる 2 つの形式

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
6.	盲目だ ; blind; del	delˬ	delˋ
9.	耳が聞こえない ; deaf; bengngawng	beŋˬŋɔŋˬ	beŋˬŋɔnˋ
16.	息をする ; breathe; thaw	tʰo:ˬ	tʰo:kˬ
18.	せきをする ; cough; khuh	kʰuʔ_	kʰuʔ_
19.	くしゃみをする ; sneeze; hahchiau	haʔ_siawˋ	haʔ_siawˋ
20.	あくびをする ; yawn; hâm	ha:mˋ	hap_
46.	跛（びっこ）をひく ; limp; ke bâi	ke:ŋˬ ba:yˬ	ke:ŋˬ ba:yˋ
57.	見える ; see; hmu	mu:ˋ	muʔ_
58.	嗅ぐ ; smell; hnîm	namˋ	nap_
59.	聞こえる ; hear; hria	tʰeyˋ	tʰeyʔ_
60.	笑う ; laugh; nui	ni:ˬ	ni:ˋ
61.	泣く ; cry; ṭap	kap_	kaʔ_
62.	叫ぶ ; shout; au	a:wˬ	awʔ_
64.	着る ; wear; ha	ha:ˬ	ha:kˋ
65.	脱ぐ ; take off; phelh	pʰelʔ_	pʰelʔ_
70.	縫う ; sew; ṭhui	kʰuyˬ	kʰuyˋ
81.	調理する ; cook; chhûm	su:mˋ	sup_
82.	熟した ; ripe; hmin	minˬ	minˋ
83.	食べる ; eat; ei	tɕa:ˬ	tɕa:kˬ
84.	舐める ; lick; liak	liakˬ	liaʔ_
85.	かむ ; chew; ṭhial	sialˬ	sialˋ
86.	飲む ; drink; in	ne:ˬ	ne:kˬ
87.	吸う ; suck; fâwp	tɕo:pˬ	tɕoʔ_
88.	吐く ; vomit; luak	luakˬ	luaʔ_
89.	吐き出す ; spit; chhâk	siaˬ	siatˋ
90.	腹が減る ; hungry; ṭâm	kialˬ	kialˋ
91.	喉が渇く ; thirsty; tui hâl	ro:lˬ kowˬ	ro:lˬ kowˋ
92.	おいしい ; tasty; tui	tuyˬ	tuyˋ
93.	甘い ; sweet; thlum	tʰumˬ	tʰumˋ
94.	苦い ; bitter; kha	kʰa:ˬ	kʰa:kˬ
95.	腐る ; rotten; ṭawih	muatˬ	muaʔ_
97.	建てる ; build; sa	sa:ˋ	sak_
104.	消す ; extinguish; timit	tiˬmit_	tiʔ_miʔ_
105.	燃える ; burn（vi）; kâng	ka:ŋˋ	kat_
106.	座る ; sit; ṭhu	kʰuŋˬ	kʰunˋ

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
107.	転ぶ ; lay down; tlu	tu:˥	tu:k˩
108.	眠る ; sleep; mu	ip_	iʔ_
109.	夢を見る ; dream; mumangah hmu	i:˧˥mu˩˧maŋ˧˥aʔ_ mu:˥	i:˧˥mu˩˧maŋ˧˥aʔ_ muʔ_
110.	起きる ; rise; tho	tʰow˩	tʰoʔ_
111.	立っている ; stand; ding	diŋ˧˥	din˥
112.	閉める ; shut（vt）; close; khâr	kʰa:k˩	kʰaʔ_
113.	開ける ; open（vt）; hawng	hoŋ˧˥	hon˥
114.	住む ; live; chêng	ʨe:ŋ˩	ʨe:n˥
120.	拭く ; rub clean; hrufai	so:p˩ʨa:y˩	soʔ_ʨa:y˥
124.	生む ; give birth; hring	hiŋ˧˥	hin˥
125.	育つ ; grow; ṭhang	kʰaŋ˧˥	kʰan˥
126.	生きている ; alive; hring	hiŋ˧˥	hin˥
127.	太った ; fat; thau	tʰa:w˧˥	tʰa:w˥
128.	痩せた ; thin; chêr	ʨe:r˩	ʨe:r˥
129.	疲れる ; tired; hah	ʨo:l˩	ʨo:l˥
130.	病気だ ; sick; dam lo	dam˧˥ow˧˥	dam˩ow˧˥
132.	痛い ; ache; nâ	na:˧˥	nat_
133.	痒い ; itchy; thak	tʰak_	tʰak_
134.	掻く ; scratch; hiat	hiat˩	hiaʔ_
135.	治す ; cure; tidam	ti˩dam˧˥	tiʔ_dam˥
136.	殺す ; kill; that	tʰat_	tʰaʔ_
137.	死ぬ ; die; thi	tʰi:˧˥	tʰiʔ_
139.	喧嘩する ; quarrel; sual	sual˩	sual˥
140.	逃げる ; run away; tlânbo	ta:y˧˥bow˧˥	ta:y˥bow˥
141.	追いかける ; pursue; zui	zuy˩	zuy˥
150.	若い ; young; lanaupang	na:w˧˥paŋ˩la:y˧˥	na:w˥pan˩la:y˧˥
151.	年取った ; old; kum tam	kum˥ tam˩	kum˥ tam˥
162.	撃つ ; shoot; kâp	ka:p˩	kaʔ_
163.	盗む ; steal; ru	hu:˩	hu:k˩
164.	働く ; work; hna thawk	na˩ se:m˥	na:˥ sep_
165.	休む ; take a rest; châwl	ʨo:l˩	ʨolʔ_
166.	剥く ; peel; vel	vel˩	velʔ_
167.	行く ; go; kal	kel˧˥	kel˥
168.	来る ; come; lo kal	hoŋ˩kel˧˥	hoŋ˩kel˥
169.	出る ; go out; chhuak	suak˩	suaʔ_
170.	入る ; enter; lût	lu:t˩	luʔ_
171.	振り返る ; change direction; inher	he:k˧˥du:n˥	he:k˥dut_
172.	止まる ; stop; bâng	ba:ŋ˧˥	ba:n˥
173.	歩く ; walk; lêng	le:ŋ˧˥	le:n˥
174.	走る ; run; tlân	ta:y˧˥	ta:y˥
175.	速い ; fast; rang	raŋ˩	ran˥

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
176.	遅い ; slow; muang	muaŋ˩	muan˧
184.	話す ; speak; ṭawng	pa:w˩	pa:w˧
185.	言う ; say; sawi	soy˨	soy˧
186.	尋ねる ; ask; zâwt	zo:t˨	zoʔ_
187.	呼ぶ ; call; ko	sam˨	sap_
189.	遊ぶ ; play; infiam	kʰe:l˧du:n˧	kʰelʔ_dut_
190.	歌う ; sing; sa	sa:˧	sak_
191.	踊る ; dance; lâm	la:m˩	la:m˧
192.	与える ; give; pe	pia˨	piak˨
193.	出会う ; meet; hmu	mu:˧	muʔ_
194.	待つ ; wait; nghâk	ŋa:k˨	ŋaʔ_
195.	殴る ; strike; vua	vua˨	vuak˨
196.	咬みつく ; bite; seh	pet_	peʔ_
197.	取る ; take; la	la:˨	la:k˨
198.	持つ ; hold; vuan	oʔ_	oʔ_
199.	掴む ; grasp; man	man˩	mat_
200.	放す ; release; thlah	tʰaʔ_	tʰaʔ_
201.	投げる ; throw; vawm	de:ŋ˩	de:n˧ (det_)
202.	触る ; touch; dek	kʰoyʔ_	kʰoyʔ_
203.	こする ; rub; nâwtfai	no:t˨tɕa:y˨	noʔ_tɕa:y˧
204.	振る ; wave; vai	vay˨	vay˧
205.	押す ; push; nam	so:n˨	so:n˧
206.	引っ張る ; pull; hnûk	nu:k˨	nuʔ_
207.	しめつける ; squeeze; herh	herʔ_	herʔ_
208.	背負う ; carry on back; pua	pua˨	puak˨
209.	蹴る ; kick; pêt	pe:t˨	peʔ_
210.	踏む ; step on; rap	si:k˨	siʔ_
211.	隠す ; conceal; hliah	liaʔ_	liaʔ_
212.	探す ; seek; zawng	zoŋ˩	zon˧
213.	見つける ; find; hmu	mu:˨	muʔ_
214.	見せる ; show; entîr	en˨ti:k˩	en˧ti:k˧
215.	置く ; put; dah	koyʔ_	koyʔ_
216.	集める ; gather together; lakhâwm	la:˨kʰo:m˧	la:k˨kʰop_
217.	作る ; make; siam	bo:l˩	bo:l˧
218.	壊す ; break（vt）; tichhia	ti˨sia˨	tiʔ_siat˨
219.	直す ; repair; siamṭha	bo:l˧pʰa:˧	bo:l˧pʰat_
220.	裂ける ; torn; thlêr	tʰe:r˨	tʰe:r˧
221.	曲げる ; bend; vawchhia	vo˨sia˨	vuak˨siat˨
222.	折る ; break（as stick）; elhthliak	ulʔ_tiak˨	ulʔ_tiaʔ_
223.	洗う ; wash; silfai	sil˨tɕa:y˨	sil˧tɕa:y˧
224.	巻く ; roll; zial	zial˩	zial˧

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式Ⅰ	形式Ⅱ
225.	結ぶ ; tie; suih	suyʔ_	suyʔ_
226.	ほどく ; untie; phelh	pʰelʔ_	pʰelʔ_
227.	かぶせる ; cover; khuh	kʰuʔ_	kʰuʔ_
228.	ふくれる ; swell; vûng	vu:ŋˬ	vu:nˋ
229.	突き刺す ; pierce; chhun	sunˋ	sut_
230.	切る ; cut; bung	buŋˬ	bunˋ
231.	混ぜる ; mix; pawlh	polʔ_	polʔ_
232.	掘る ; dig; lai	la:yˋ	layʔ_
233.	する ; do; ti	se:mˋ	sep_
234.	動く ; move; chê	li:ŋˊ	li:nˋ
235.	跳ねる ; jump; zuang	tɕuakˋ	tɕuaʔ_
236.	登る ; ascend; lâwn	lo:nˬ	lo:nˋ
237.	降りる ; descend; chhuk	suk_	suk_
238.	落ちる ; fall; tla	ta:ˋ	ta:kˊ
239.	濡れる ; wet; huh	nomˬ	nomˋ
240.	乾いた ; dry; ro	kowˬ	kowˋ
241.	考える ; think; ngaihtuah	ŋayʔ_tuaʔ_	ŋayʔ_tuaʔ_
242.	知る ; know; hria	tʰeyˋ	tʰeyʔ_
243.	忘れる ; forget; theihhngilh	tʰeyˋŋilˋ	tʰeyʔ_ŋilʔ_
244.	教える ; teach; hrilh	hilʔ_	hilʔ_
245.	こわがる ; fear; hlau	la:wˊ	lawʔ_
246.	好む ; like; duh	deyʔ_	deyʔ_
247.	喜ぶ ; glad; lâwm	lo:mˋ	lop_
248.	怒る ; angry; thin ur	la:yˬna:ˬ	la:yˋnat_
259.	凍る ; freeze; khang	kʰaŋˊ	kʰanˋ
260.	溶ける ; melt; tui ral	tuyˊralˊ	tuyˋralˋ
266.	明るい ; bright; êng	e:ŋˊ	e:nˋ
267.	暗い ; dark; thim	mo:kˊ	moʔ_
269.	吹く ; blow; chhêm	se:mˬ	se:mˋ
270.	暑い，熱い ; hot; sa	sa:ˬ	sat_
271.	寒い，冷たい ; cold; vâwt	da:yˋ	dayʔ_
272.	暖かい ; warm; lum	lumˬ	lumˋ
278.	泡立つ ; bubble; phuan	pʰuanˋ	pʰot_
279.	沈む ; sink; pil	pilˬ	pilˋ
280.	浮かぶ ; float; lâng	la:ŋˬ	la:nˋ
281.	流れる ; flow; luang	luaŋˬ	luanˋ
298.	生える ; come out; ṭo	do:nˋ	dot_
299.	枯れる ; wither; vuai	vuayˬ	vuayˋ
319.	飛ぶ ; fly; thlâwk	le:ŋˬ	le:nˋ
320.	泳ぐ ; swim; tui hleuh	tuyˊ leuʔ_	tuyˊ leuʔ_
321.	丸い ; round; bial	bialˬ	bialˋ

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
322.	鋭い ; sharp; hriam	hiamꓶ	hiamꓵ
323.	鈍い ; dull; bil	bilꓸ	bilꓵ
325.	まっすぐな ; straight; ngîl	ŋi:lꓶ	ŋi:lꓵ
326.	大きい ; big; lian	lianꓵ	let_
327.	小さい ; small; tê	ne:wꓸ	ne:wꓵ
328.	長い ; long; sei	sa:wꓸ	sa:wꓵ
329.	短い ; short; tawi	to:yꓸ	to:yꓵ
330.	厚い ; thick; chhah	saʔ_	saʔ_
331.	薄い ; thin; pan	panꓶ	panꓵ
333.	赤い ; red; sen	sanꓶ	sanꓵ
334.	青い ; blue; pâwl	po:lꓸ	po:lꓵ
335.	黄色い ; yellow; eng	eŋꓶ	enꓵ
336.	緑色だ ; green; hring	hiŋꓶ	hinꓵ
337.	白い ; white; vâr	va:kꓶ	va:kꓵ
338.	黒い ; black; dum	dumꓶ	dumꓵ
341.	強い ; strong; chak	tɕak_	tɕak_
342.	弱い ; weak; zawi	zoyꓸ	zoyꓵ
343.	正しい ; right; dik	dik_	dik_
344.	良い ; good; ṭha	pʰa:ꓵ	pʰat_
345.	悪い ; bad; sual	sualꓸ	sualꓵ
346.	すべっこい ; smooth; tluang	tuaŋꓶ	tuanꓵ
347.	古い ; old; hlui	luyꓶ	luyꓵ
348.	新しい ; new; thar	tʰarꓶ	tʰarꓵ
349.	美しい ; beautiful; hmêl ṭha	me:lꓶpʰa:ꓵ	me:lꓵpʰat_
350.	清潔な ; clean; fai	tɕa:yꓸ	tɕa:yꓵ
351.	汚い ; dirty; bawlhhlawh	bolʔ_loʔ_	bolʔ_loʔ_
352.	固い ; hard; sak	tɕi:pꓸ	tɕi:pꓵ
353.	柔らかい ; soft; nêm	ne:mꓶ	ne:mꓵ
364.	近い ; near; hnai	na:yꓸ	nayʔ_
365.	遠い ; far; hla	lamꓸla:ꓸ	lamꓸlat_
366.	高い ; high; sâng	sa:ŋꓶ	sa:nꓵ
367.	低い ; low; hniam	niamꓸ	niamꓵ
368.	深い ; deep; thûk	tʰu:kꓸ	tʰuʔ_
369.	浅い ; shallow; thûk lo	tʰu:kꓸowꓶ	tʰuʔ_owꓶ
370.	広い ; wide; zau	za:wꓶ	za:wꓵ（zawʔ_）
371.	狭い ; narrow; zîm	zi:mꓶ	zi:mꓵ
373.	満ちる ; full; khat	dimꓸ	dimꓵ
380.	早い ; early; hma	palꓶ	palꓵ
381.	晩い ; late; tlai	ta:yꓸ	ta:yꓵ
393.	数える ; count; chiar	siarꓶ	siarꓵ
409.	重い ; heavy; rit	hit_	hiʔ_（hit_）

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式Ⅰ	形式Ⅱ
410.	軽い ; light; zâng	za:ŋ˩	za:n˥
411.	多い ; many; tam	tam˩	tam˥
412.	少ない ; few; tlêm	to:m˩˧	to:m˥
453.	ある ; exist; awm	om˩	om˥
454.	できる ; capable; thei	they˥	tʰeyʔ_
455.	同じだ ; be the same; inang	baŋ˥du:n˥	bat_dut_
456.	他の ; other; dang	daŋ˩	dan˥

略語一覧

1: 1st person, 2: 2nd person, 3: 3rd person, X＞Y: the first X is the agent-like argument and the second Y is the patient-like argument（e.g. 3 ＞ 1 may mean 3 acts on 1）, -: morphological boundary（Segmentable morphemes are separated by hyphens.）, =: clitic boundary, ᴵ: Form I, ᴵᴵ: Form II, A: agent-like argument of canonical transitive verb, BEN: benefactive, C: consonant, CAUS: causative, COM: comitative, CONJN: conjunction, COP: copula, DET: determiner, ERG: ergative, FUT: future, IMP: imperative, INS: instrumental, LOC: locative, NEG: negative, NMLZ: nominalizer, OBJ: object, P: patient-like argument of canonical transitive verb, PL: plural, PR: proper noun, PRF: perfect, PURP: purposive, Q: question, RELINQ: relinquitive（Peterson 1998: 100–101）, S: single argument of canonical intransitive verb, T: tone, V: vowel/verb.

謝辞

長きにわたり筆者の言語調査に協力して下さったメイン・インフォーマントのラルラムザウヴァ・ラルテー（Lalramzauva Ralte, Pu Ramzauva）氏，そして調査の過程で多くの御助言を下さったミゾラム大学ミゾ語学科のラルタンモーイア教授（Prof. R.L. Thanmawia）のお二人に心より感謝の意を表します。万が一，記述の内容や例文に誤りや誤字等があった場合，一切の責任は筆者に帰します。なお，本研究は，JSPS 科研費 JP26770136, 17K13442, 17H04523, 18H03599 の助成を受けています。

参考文献

Chhangte, Lalnunthangi（1986）A preliminary grammar of the Mizo language. M.A. Thesis, University of Texas at Arlington.

――（1993）Mizo Syntax. Ph.D. Dissertation, University of Oregon.

――（2011）Preliminary phonology and morphology of Ralte（Mizoram）. http://sealang.net/neils/

archives/2011/abstracts.pdf ［アクセス日：2018/9/20］

Grierson, George A.（1904）Tibeto-Burman Family: Specimens of the Kuki-Chin and Burma Groups. *Linguistic Survey of India* 3（3）. Calcutta: Office of the Superintendent of Government Printing.

服部四郎（編）（1957）『基礎語彙調査票』東京：東京大学言語学研究室.

Henderson, Eugénie J. A.（1965）*Tiddim Chin: A Descriptive Analysis of Two Texts*. London: Oxford University Press.

Hillard, Edward J.（1974）Some aspects of Chin verb morphology. Linguistics of the Tibeto-Burman Area 1（1）: 178–185.

L.V. Zahnuna（2013）*Translation book: English-Hindi-Mizo in Roman Script.* Aizawl: Sinngula & Sons.

Matisoff, James A.（2003）*Handbook of Proto-Tibeto-Burman: system and philosophy of Sino-Tibetan reconstruction*. Berkeley: University of California Press.

西田龍雄（1989）「チン語支」亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典　世界言語編（中）』2: 995–1008. 東京 : 三省堂.

大塚行誠（2015）「ラルテー語における音韻体系：ミゾ語及びティディム・チン語との対照的考察」『東京大学言語学論集　電子版（eTULIP）』36: e49–e59.

―― （2016a）「ラルテー語の基礎語彙とテキスト」『アジア・アフリカの言語と言語学』（10）: 325–344.

―― （2016b）「ラルテー語の人称標示」『東京大学言語学論集　電子版（eTULIP）』37: e19–e28.

Peterson, David A.（1998）The morphosyntax of transitivization in Lai（Haka Chin）. Linguistics of the Tibeto-Burman Area 21（1）: 87–153.

Ralte, Khawitinthanga（2005）*Ralte ṭawng vawnṭhatna.* Aizawl: Thangkima Ralte.

Ralte, Lalramzauva（2017）*Ralte ṭawng vawnṭhatna (Ralte pau vawn phatna).* Aizawl: Ralte Welfare Committee, Hqrs.

Ralte Study Forum ed.（2012）*Thuthung thar (Ralte pau).* Aizawl: Ralte Study Forum.

Simons, Gary F. and Charles D. Fennig（eds.）（2017）*Ethnologue: Languages of the World, Twentieth edition.* Dallas, Texas: SIL International. http://www.ethnologue.com ［アクセス日：2018/9/20］

VanBik, Kenneth（2009）*Proto-Kuki-Chin: A Reconstructed Ancestor of the Kuki-Chin Languages (STEDT Monograph 8)*. Berkeley: Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus Project.

藪司郎（1982）『アツィ語基礎語彙集』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.